

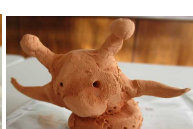
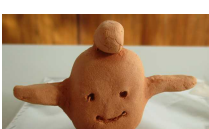
「はにわ作りは、子どもたちの楽しい、うれしいを心に残せたようでした。」

「NPO 法人たからじま やんちゃりか」の利用生9人と支援員5人が夏休みに引き続き、放課後デイサービスにおける活動の一環として、体験や活動を通して達成感を感じることを目的に、ミニはにわ作りと火起こし、弓矢など3つの体験を行いました。

ミニはにわ作り体験

はじめに、はにわについての説明を簡単にした後、どんなはにわにするのかを考え、粘土を袋から出して胴体部分を作ります。その後、腕や帽子などの部品を作り、胴体につけていきました。一人ひとりの思いを表現したミニはにわが完成しました。

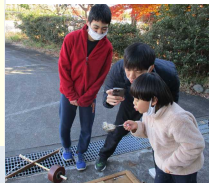
「楽しかったです。」



火起こし体験

夏に引き続き、2回目の火起こしでした。低学年の子は弾み車を回す力が弱いため、センター職員や支援員と一緒に弾み車を回し、高学年の子はひとりで頑張ってお火起こしをして火種を作りました。フーフータイムも根気よく息を吹きかけて、火口が燃え上がりました。寒かった体も温まり、全員が火を起こすことができました。

「全員、火がいてよかった。」



弓矢体験

「上手くやれなくて、くやしかった。もっとやりたかった。」



ほとんどの子が、初めての弓矢体験でした。ひとり5本の矢を射ります。慣れるまでは、弓を引けなかったり、矢が遠くに飛ばずに足下に落ちたりして上手くいきませんでした。それでも何回も挑戦し、10点のオオカミや20点のカモシカを狙い当てることができました。慣れてくると50点のオオグマを狙い、何回も当てている子もいました。



支援員の感想

「集中して指先を使い形ができる、自分の作ったものを家族に見てもらえる」はにわ作りは、子どもたちの楽しい、うれしいを心に残せたようでした。物作りを室内で、「火起こし」と「弓矢」を屋外で体を動かして、子どもたちは充実した1日が送れました。また、分かりやすい説明で、子どもたちが安心して過ごしていました。今回、上手くやれずに悔しい思いをした子どもも、もっとやりたかったようで、今後も体験に参加させていただきたいです。よろしくお願いします。」

